

# 編集後記にかえて

囀府寺 司

キャスリーン・バトルのコンサートに行った。バトルの歌そのものも魅力的だったが、ずいぶん久しぶりに国内のコンサートに行ったおかげで、「音楽」とは別の新鮮な体験もした。いつ果てるともなく続くアンコールの末、いよいよ歌手が最後に舞台上に登場した時、握手を求める聴衆がどつと舞台の方に突進していく。いまさらながらに思ったのは、コンサートに来る人は音楽を聴きに来るのでは（だけでは）ないという、至極あたりまえのことだった。ミーハーになりきれない私も数えきれないぐらい音楽鑑賞以外のことをやっていたことにはわりはない。

「芸術」という名の制度が批判されはじめてから、すでにいく世代かが過ぎた。書齋を見回しただけで、「美術館の廃墟」、「〈芸術〉の終焉」といった言葉が次々に目に飛び込んでくる。また、「軽やかな聴衆」や森村の「美術史の娘」といった言葉が机上では元気に遊んでいる。かつての「芸術」たちを、現代の人々は一気に葬りさろうとしているようだ。芸術の殿堂はそれでも生き延びているようでもあり、しかし、あきらかに別の顔をもちつつある。

「芸術研究」第六号は、研究会が学会に変わってから最初の記念すべき号である。また、今年には学会に法人会員にも参加いただいた。「芸術」の変貌とともに、会の活動もその相貌を変えていくことになるであろう。

(こうでら・つかさ 広島大学)

本号掲載論文中、安西、フォーゲルの両氏の論文は、当会大会および例会に於ける口頭発表に基づくものである。

## 編集委員

青木 孝夫・大井 健地・大橋 啓一  
香川不苦三・金田 晉・倉橋 清方  
囀府寺 司・齋藤 稔・幣原 映智  
高木 茂登・八田 典子・水田 一征  
出原 均・水島 裕雅・安西 信一  
永田雄次郎・松本 真・伴谷 晃二

## 芸術研究

第六号

頒価一五〇〇円

平成五年七月十五日 印刷  
平成五年七月十六日 発行

編集 広島芸術学会年報編集委員会  
発行 広島芸術学会

〒724 東広島市鏡山一―七―一  
広島大学総合科学部比較文化研究室気付  
TEL 〇八二四―二四―六三三五  
or 六三三〇

印刷 柏村印刷株式会社  
〒730 広島市中区国泰寺町二―五―二七  
TEL 〇八二―二四六―八〇〇〇